

小公園における愛護活動の実態と活性化への方策に関する一考察*

Consideration about Management Activity and Countermeasure in Basic Park

塚田 伸也**・湯沢昭***

By Shinya TSUKADA, Akira YUZAWA

1. はじめに

都市における緑とオープンスペースの拠点となる小公園は、戦後、急速に整備が進められおり、その数と量を増している。平成12年度末の現況は全国で19,482haであり、都市公園の全体面積の20.3%を占めている。近年、ヒートアイランド現象など都市環境問題の顕在化や自然との共生意識の高まり、高齢化の急速な進展や地域コミュニティの振興を踏まえ、緑豊かな生活環境の創出や多様化する国民ニーズに対応する住環境整備が急務であり、小公園に多様な期待がされている。

都市公園は整備と共にいかに適切に維持管理され、有効に利用されることが重要であり、施設の持つ諸機能が十分に発揮され、常に利用者が安心できる快適な状態であればならない。しかし、近年、管理水準の低下や施設の老朽化に伴い、本来の利用が阻害されるなど公園施設内における安全性や防犯等が社会問題となっている¹⁾。このことから時代の新しいニーズにあった都市公園の管理運営が求められており、市民とパートナーシップに基づき、公園の形態、住民の多様な要求に応じた効率的で適切な管理運営が必要である。

公園の管理運営を大きく捉えると2つに分類される。1番目は除草や清掃、植物の消毒や剪定、施設工作物の修繕や点検など「維持管理」であり、施設の老朽化を踏まえ、施設の安全管理、効率的な管理体制が求められている²⁾。2番目はイベントの企画や実施、利用方法の指導など「利用管理」であり、公園利用の活性化や利用モラルの育成、防犯性から運営の活性化が求められている。

今後、地方財政の健全化が求められるなかで、公園の維持管理と利用管理の充実を地域住民との協力、連携により行い、公園利用者の利用モラルを育成して快適な公園利用を図るべきであり、この実現のために住民の自主的な管理運営への参画が不可欠となっている。

*KeyWords:公園・緑地、市民参加、意識調査分析

**学生員 前橋工科大学大学院地域・交通計画研究室

***正会員 工博 前橋工科大学建設工学科

前橋市上佐鳥町460-1 Tel(027)265-7362

2. 研究の目的

小公園の管理については、全国的に地域住民のボランティアを主体に構成された公園愛護団体が管理運営を積極的に実施しており、この分野の研究が行われている。

金子ら³⁾は主要都市における愛護会の成立過程と発足状況について調査しており、根来ら⁴⁾は活動内容と団体の性格について分析している。児玉ら⁵⁾は行政と愛護会にアンケートを行い、両者の維持管理における意識について調査しており、岩村ら⁶⁾は神戸市を事例に活動を調査し、愛護会活動を促進するための方策として計画策定時の住民参画に着目している。

愛護会活動を捉えるためには、緑に対する住民行動からの参加意識を捉えること、活動の具体的な実態を詳細に調査して把握することが重要であるが、従来研究においてはあまり見られない。そこで、本研究では前橋市を事例に住民の緑に対する意識と行動を把握すると共に、愛護会の活動実態を評価することによって、活動の影響と活性化への方向性を考察するものである。

3. 前橋市における小公園の現状

表-1は、前橋市における平成13年度末の小公園の整備状況を示したものである。現在までに230箇所、69.46haの小公園が整備されており、全都市公園面積の24.98%を占めている。街区公園は都市計画事業の決定により計画的に整備した公園、民間開発等で整備し、帰属された公園がある。計画的に整備した公園は1箇所あたり面積が0.29haと街区公園の標準面積(0.25ha)を上回る値を示しているのに対し、帰属された公園は0.09haと標準面積の31%に留まっている。

表-1 平成13年度末の小公園の整備状況

	街区(都決)	街区(都決外)	近隣公園	全体
平均(ha)	0.29	0.09	1.51	0.30
最小(ha)	0.06	0.01	1.00	0.01
最大(ha)	0.88	0.82	3.90	3.90
合計(ha)	35.44	8.42	25.60	69.46
公園数(箇所)	121	92	17	230
愛護会(箇所)	117	29	13	159
(%)	96.7	31.5	76.5	69.1

前橋市内の愛護会は、昭和 29 年に住民の自主的な取り組みとしてボランティア団体が結成されたことを起源としており、今日まで自治会や老人会など地域的な取り組みが中心となって活動が行われている。小公園全体における 69.1% (159 箇所) の小公園で活動が行われており、特に計画的に整備された街区公園では、全体の 96% である 117 箇所であ護会が組織されている。

図 - 1 は、前橋市における年度別の小公園について整備状況の推移を示したものである。図より分かるように小公園の整備は、昭和 40 年度より急速に整備が進められ、整備後 20 年以上を経過している小公園は 105 箇所、43.24ha であり小公園の総数の 62.46% を占めている。平成 27 年度まで 28.25ha (131 箇所) の小公園の増加を見込んでおり、施設の老朽化と施設量の増加を踏まえ、施設補修を主とした維持管理費用の増大が想定される。

図 - 2 は、公園の総事業費と小公園の事業費の年度別内訳と推移を表したものである。公園の総事業費は 15 億円から 20 億円の範囲で推移しているが、小公園維持管理事業費は増加傾向を示している。平成 2 年度において公園事業費の 17% を占めていた小公園の維持管理費は、平成 7 年度に事業費の 34% を占め、平成 13 年度においては 43% と、維持管理費が急激に増加している。

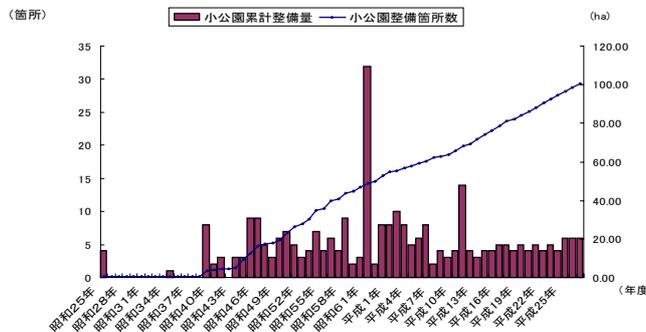


図 - 1 年度別に見る小公園の整備量

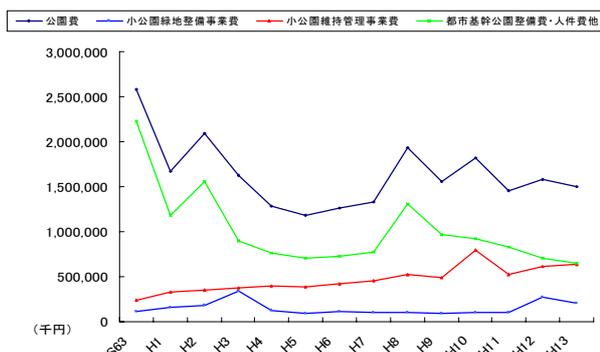


図 - 2 公園の総事業費と小公園の事業内訳の推移

4. 緑に関する住民意識

(1) 緑のボランティアに関する住民意識

緑に関する住民の意識を把握するため、前橋市緑の基本計画策定に伴い実施した住民アンケート(平成 8 年 12 月実施)のデータを用い分析を行った。

図 - 3 は、調査対象者の「緑に関するボランティア経験の有無とその形態」について伺った結果である。図 - 3 から分かるように調査対象者の 23% が緑に関するボランティア経験があり、中でも「社寺・公園の清掃や草刈をした」が最も高いことが分かる。図 - 4 はボランティア経験の有無を年代別に表したものである。図から分かるように年代層が上昇することに従い、ボランティアの活動経験の割合が上昇している。20 代と 30 代では 19.7%、19.5% であるのに対し、60 代と 70 代では 27.5%、35.5% と年代と共に増加する傾向にある。

(2) 世代から捉えた緑に関する住民意識と行動

世代層における住民の緑に対する意識を探るため、休日における緑と接する行動について、表 - 2 に示す 8 項目のカテゴリーについて「実施なら 1」、「実施しなければ 0」として、数量化理論第 1 類による分析を行った。この結果から得たカテゴリースコアを 2 軸上平面上に布置したものが図 - 6 である。

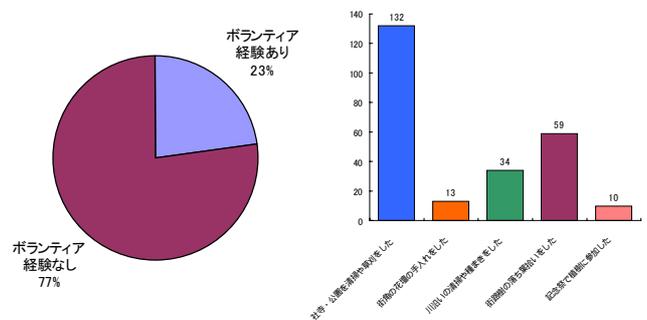


図 - 3 緑のボランティア経験の有無と形態(n=790)

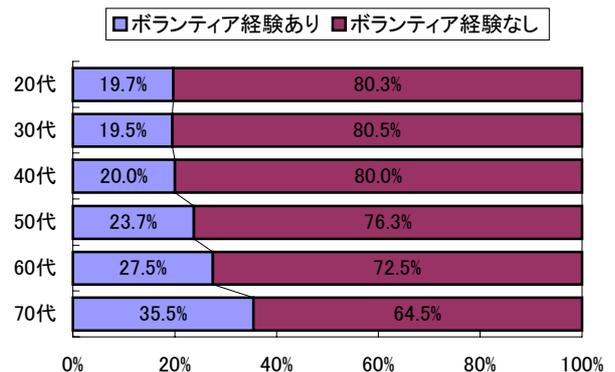


図 - 4 年代別に見るボランティア経験の有無

次にこの2軸を用いて活動項目の類型化を試みた。第1軸の正の値が大きい項目として「自然豊かな公園に行く」や「施設の整った公園に行く」があり、負の値が大きい項目として「庭木の手入れ」や「植木鉢の手入れ」があることから「公的空間 - 私的空間」と意味付けを行った。同様に第2軸の正の値が大きい項目として「野山に行く」や「自然豊かな公園に行く」があり、負の値が大きい項目として「近くの公園に行く」や「施設の整った公園に行く」があることから「自然空間 - 人工空間」と意味付けをした。また、緑を増やし守るために可能な住民の行動意識について回答を得た表 - 3 に示す7項目のカテゴリーについて同様の分析を行い、2軸上平面上に布置したものが図 - 7 である。

表 - 2 休日における緑と接する行動の8項目のカテゴリー

1	近くの公園へ行く	5	川辺に行く
2	施設の整った公園に行く	6	貸し農園で野菜を育てる
3	自然豊かな公園に行く	7	庭木や生垣の手入れ
4	野山や雑木林へ行く	8	植木鉢やプランターの手入れ

表 - 3 緑を増やし、守るために可能な意識の7項目のカテゴリー

1	家に花や鉢植えを飾る	5	街角花壇の手入れに参加する
2	家庭の庭木を積極的に増やす	6	川沿いの清掃や種まきをする
3	地域ぐるみの緑化を進める	7	街路樹の手入れに参加する
4	公園や社寺の草刈りや清掃をする		

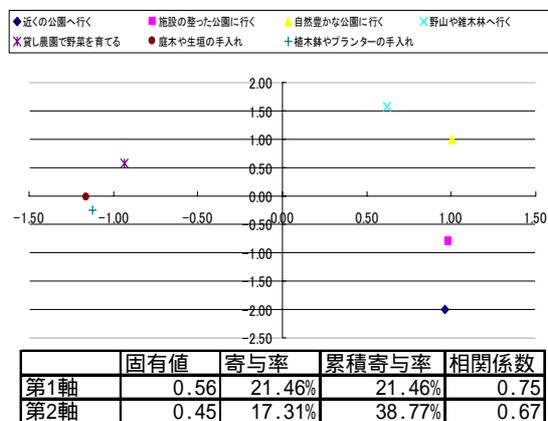


図 - 6 休日における緑との接点

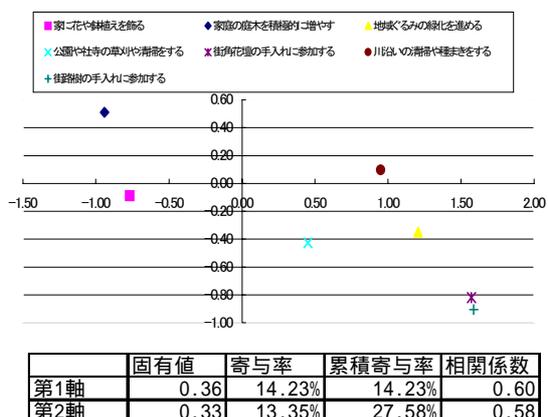


図 - 7 緑を増やし、守るための行動意識

この結果から 第1軸の正の値が大きい項目として「街路樹の手入れ」があり、負の値が大きい項目として「家庭の庭木を増やす」などがあることから「公的空間 - 私的空間」、第2軸を「緑を増やす行動 - 緑を守る行動」と意味付けを行った。

図 - 8, 図 - 9 は、休日における緑と接する活動を世代別に表したものである。この結果より、20 - 30 代(若年層)は「公的空間 - 人工空間」で日常的な活動をしており、60 - 70 代(壮年層)は「私的空間 - 自然空間」で日常的な活動をしていることが分かる。また、緑を増やし守るための行動意識では、若年層が「私的空間 - 緑を増やす行動」を意識として捉えているのに対し、壮年層は「公的空間 - 緑を守る行動」を意識として捉えていることが分かる。このことから、年代層により緑に対する活動空間と行動意識が異なることが分かる。

5. 愛護会の活動実態

愛護会活動の活動状況を把握するため、「平成 13 年度前橋市愛護会活動実績報告書」により 115 団体(全組織の 72%) の愛護会の実態調査を行った。

図 - 9 は、平成 13 年度における月別の活動参加者の延べ人数である。活動は、除草と清掃を主体としており、草が繁茂する 5 月から落葉が始まる 10 月にかけて集中的に活動が行われていることが分かる。また、愛護活動の一環として、花壇づくり、低木の刈り込みや消毒、遊具の修繕などが行われている団体がある。

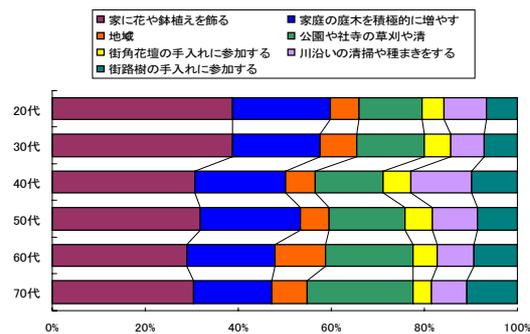


図 - 8 休日における緑との接点

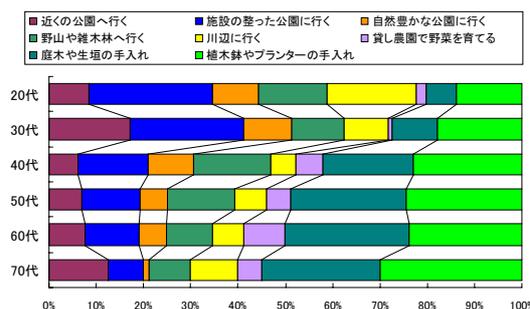


図 - 9 緑を増やし、守るための行動意識

そこで、面積あたりの参加者が多いことが管理を充実させるという仮定のもとで活動内容との要因分析を数量化理論第 類により試みた。目的変数を「面積あたりの参加人数」とし、参加者が少ない公園(1.0 人/m²未満)を 1,参加者が普通程度の公園を 2,参加者が多い公園(2.0 人/m²以上)を 3 とした。説明変数は「除草・清掃」、「花壇づくり」、「樹木管理」、「修繕管理」、「地区行事」の 4 つのカテゴリーを用い、目的変数と同様に実施回数に応じて少ない公園を 1,普通程度の公園を 2,多い公園を 3 とした。表 - 5 は分析結果であり、「地区行事」の実施回数がカテゴリーウエイトの符号とレンジの値の大きさより参加者人数に与える重要な要因であることが分かる。なお、「樹木管理」や「花壇づくり」は、カテゴリーウエイトの符号より、活動の専門的性格等から特定人数による活動形態を有していると思われる。

表 - 4 調査団体の概要と活動内容

標本数	115 団体	活動内容	回数(回/年)
地域面積(ha)	6,884 ha	除草・清掃	12.02
公園面積(m ²)	426,000 m ²	花壇	1.29
年間参加延人数(人)	53,629 人	樹木管理	1.25
地域世帯数(世帯)	56,016 世帯	修繕管理	0.23
		地区行事	0.41

参加人数(人)

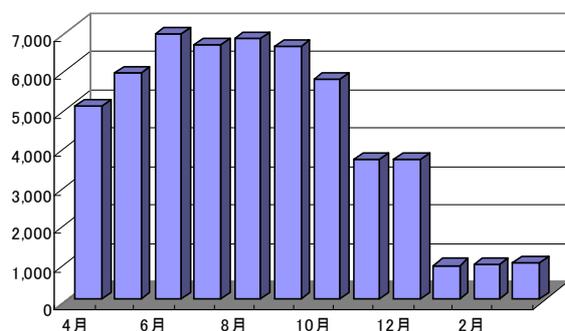


図 - 9 年間における愛護会の月別参加者数

表 - 5 数量化 類による分析結果

項目	標本数	カテゴリ	レンジ	偏相関係数
除草・清掃	12	少ない	-0.375	0.734
	88	普通	-0.010	
	15	多い	0.359	
花壇	75	少ない	0.030	1.312
	30	普通	0.272	
	10	多い	-1.040	
樹木管理	58	少ない	-0.154	2.663
	40	普通	0.951	
	17	多い	-1.713	
修繕	99	少ない	-0.087	1.286
	13	普通	0.780	
	3	多い	-0.506	
地区行事	91	少ない	-0.099	1.861
	21	普通	0.178	
	3	多い	1.762	

判別群	群				全体
	少ない	普通	多い	的中率	
少ない	21	8	10	39	
普通	5	17	3	25	
多い	10	20	21	51	
全体	36	45	34	115	
				51.30 %	

表 - 6 は愛護会の活動を前橋市の委託業務単価より試算した結果であり、平均的な公園の活動において年間 3,375 千円の市場価値を有していることが分かる。前橋市で組織される全ての愛護会の小公園活動面積から、市場価値を試算した結果は 522,185 千円となった。この額は前橋市の小公園の維持管理費とほぼ同額となることが分かる。

表 - 6 愛護会活動の市場評価

管理項目	単位	数量	単価(円)	回数	計
公園内除草・清掃	m ²	75	3,704	1 2 回	3,333,600
草花植付	m ²	2,533	10	1 回	25,330
低木管理	m ²	150	111	1 回	16,668
年平均公園あたり	箇所	1	-		3,375,598
m ² あたり					911 (円/年)
愛護会が設置されている全公園あたり					573,200 m ² × 911(円/m ²) = 522,185,200

6. 結び

適正な小公園の管理運営は、利用者である地域の住民が積極的に参画することにより初めて実現できるものである。本研究では、住民の緑に関する意識と行動、愛護会活動の実態を把握することにより以下の知見を得ることができた。

- 1)自治体においては、小公園を維持管理するために今後も財政的負担が推察されるため、効率的かつ適正な小公園の管理運営を行うために住民参画による愛護活動が不可欠である。
- 2)世代層における緑に関する日常的な活動と行動意識に相違性があることから、これを踏まえた活動展開と体制づくりを推進すべきである。
- 3)地域イベントの実施が活動参加者に与える影響が大きいため、地域コミュニティ振興の場として小公園を積極的に活用することが活性化に有効と思われる。

今後は、愛護会による地域イベントの実態形態を踏まえ、利用モラルと地域コミュニティ振興に与える影響分析を行うべきであると考えます。

【参考文献】

- 1) 進士五十八(1998)：住民による公園運営，公園緑地 Vol.59, No1, pp.19-20
- 2) 小出治(2000)：公園づくりにおける防犯環境設計，公園緑地 Vol.60, No6, pp.13-15
- 3) 金子忠一・内山正雄(1983)：都市公園の管理体制についての研究：造園雑誌 45(6), pp.99-104
- 4) 根来千秋・渡辺謙三(1987)：児童公園の管理における住民の参加・協力に関する研究，都市計画学会論文集，No.22, pp.271-276
- 5) 児玉陽子・嶋田善昭・船渡悦夫(1999)：公園愛護会による街区公園の維持管理の実態について，土木計画学研究・講演集, No.22(1), pp.255-258
- 6) 岩村高治・横張真(2002)：公園計画策定時における住民参加がその後の公園管理運営活動に与える影響，ランドスケープ研究, Vol.65, No5, pp.735-738